

人文学部の  
今を伝える

# Agora

人文ニュース<アゴラ>

"AGORA"とは、ギリシャ語で"広場"という意味です。

43巻2号  
山形大学人文学部  
2011.12.9

人文ニュース 第43巻2号 <http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm>



## Quiz 山形の偉人再発見

Who's Who in Yamagata

この世界的な外交の舞台に登場する若き山形の偉人(着席者について左側から5番目)は誰でしょう?

1905年9月4日に、アメリカ大統領ルーズベルト斡旋のもとに進められたポーツマス講和条約の調印式に、草案を作成した外交官として同席しています。

\*答えたわかった方は大学コンソーシアム山形(山形駅東口からすぐ、ミスターードーナツ並び)にお越し下さい。先着30名に人文学部特製クリアファイルをプレゼントします。山形の風景と、キャンパスの美しい四季がプリントされています。

ポーツマス講和条約の調印式(1905)  
白滝幾之助(奉納者:横浜正金銀行) :『聖徳記念絵画館壁画』, 明治神宮外苑

Agora で魅力ある山形大学人文学部を  
のぞいてみませんか?



- ① 人文学部国際学術講演会
- ② ナスカ地上絵プロジェクト
- ③ 山形偉人再発見プロジェクト
- ④ 異文化間コミュニケーション実習 I

## Contents

学科長インタビュー	02
地域に根ざし世界を目指す	04
「山形の偉人再発見」研究教育	04
研究教育活動の紹介	05
Formosa!! 麗しき台湾ワールド	06
地域づくり特別演習(一)(二)	08
文化財調査実習	09
人文学部外国人留学生実地見学旅行	09
地域とともに	10
スタート! 就活の道のりへ踏み出そう!	11
世界を見据えた熱いメッセージ	11
人文ニュース/書籍・出版物紹介	12

### 山形国際ドキュメンタリー 映画祭 2011

映画祭には、会場のボランティアで参加しました。写真はさよならパーティーでの崔洋一監督との一枚!!

人間文化学科4年 佐藤早苗  
栗原沙苗



(回)山形大学人文学部の「山形の偉人再発見」研究教育プログラム  
(社)山形県立美術館(主催)山形県立美術館(共催)山形市立美術館  
2011年12月9日(土)午後1時より開催。入場料無料。会場:山形市立美術館  
会場:山形市立美術館

# 「おおきに」

冨田かおる  
人間文化学科長・教授(英語音声学)

冨田：ようこそおこしやす。

——ありがとうございます。早速質問に移させていただきます。

冨田：はあ、何でもゆうて下さい。

——先生のご専門は何ですか。

冨田：人が音声を発声するメカニズムを調べたり、実際に発声された音声の特徴を取り上げたりしています。特に英語音声学の分野で興味深いテーマが見つからないか、本や雑誌を読んでメモし、また、人の話に耳を傾け、関連した話は特に気をつけて聞くようにしています。でもこの頃、以前よりも人の話が聞こえにくくなり、少し困っています。英語は、確かに、自分の専門ですが、あくまでも、外国語として学習した言語です。聞こえない音や語、句や文があり、意味が旨く思い浮かばない時には、十分に身に付いていないからなのだろうと考えます。もちろん、近頃、耳の聞こえが悪くなったからだと言い訳もしますが。でも、日本語の場合は、ムの音がブに聞こえたり、タをダと聞いたり、ハ音が消えてしまったりと、音が暴れ出した時に、それが専門書の説明の通りである事にかえって感心してしまいます。子音と言われる音が多いのですが、発声時に使う口の形が共通するもの同士で聞き間違いがよく起こると言われています。音声を記号で表し言語の特質を扱う音韻論、音声の音波の特質を扱う音声学、言語の学習を扱う英語教育の研究テーマには、自分が話す側となった時の活動として、また、聞く側となった時の感覚として、そして話したり聞いたりする音声の特質と人の活動や感覚との関係についてわかっていないことが沢山あります。

——授業ではどのような内容を扱っているのですか。

冨田：英語の実践的なコミュニケーション能力を上げるために、英語音声学がどの様に役立っているのかを、受講生と共に考えています。英語音声学の原書を読み、その内容について英語で発表をし、関連したテーマの語りを聞き取り、英語の発音としてどうだとか、聞き取りがうまくいかない音声上の原因はどうだとか、聞き流すだけで外国語が身に付くことは、残念ながら無いと言う前提で授業を進めています。英語音声学の授業は単調になりがちで、細かな話ばかりでいやになってしまい、とか、発音を直されて、折角好きになりかけた英語が嫌いになってしまったとか、通じれば良いのであって、英語らしい発音にする必要は感じないと意見があることは承知していますので、準備したテーマや題材への反応には、毎回、ドキドキしています。実際に使われる生き生き表現や、様々な場面呈示で種々の音の変化が少しでも実感できるような音声資料がないかと、いつも探し回っています。たったひとつの言葉、例えば“circus”が通じず、広場の名前を言ったら、“Oh, circus.”と会話全体の内容が伝わったことなど、現実の場面トピックを授業の中でどう再現したら良いのか、なかなか思うようにはいかず、失敗の連続です。あきらめずに、英語音声学っておもしろいと感じてもらえるような授業を組み立てていきたいと思っています。

——先生は人間文化学科の学科長をされているわけですが、学科の魅力はどこにあると思われますか。

冨田：人間文化学科の学生さんに以前、山形大学人文学部人間文

化学科の良い点は何ですかと質問したことがあります。正直で、また、印象的な答えは、キャンパスが狭いから迷わない、また、授業に遅れそうになんでもダッシュで間に合う、電車の駅や高速バス停まで一直線だというものでした。これは山形大学小白川キャンパス全体の事ですし、また、移動についての話で、学科の魅力のほんの一部にすぎませんよね。それでも、大学への、また大学内での移動は大切なことですし、自分の足で歩いたり、たまに転げたりしながら、走りながら何分で行きつかを予測できることはありがたい環境だと思います。それで、学科の魅力ですが、先生方の研究と授業にあると思います。

——特色ある授業はありますか。

冨田：興味を覚え、深く共感できる内容の授業が揃っています。文化や社会を多面的に扱い、いずれも、独創的な貢献をされている先生方が、文化科学や社会科学と言われる多方面領域の広がりを、明確な姿に組み立てたものとなっています。ひとつひとつの授業テーマによって、その分野への興味が深まることが期待されていますが、さらに、学年が上がり、また、卒業後の社会生活において、これらが基盤となり、様々な問題解決や根本的な問題に取り組めるようになることが何よりも大事だと思います。社会変動が激しく、時に閉塞感に囚われることも多く、それでも可能性を求めていれば、希望を叶えることができる時代にあって、今だからこそ考えたい事柄があり、求めたい気持ちもわいてくるのだと思います。そして、この様な目標につながる授業に出会えるかどうかは、教える側と教えられる側、そして両者の議論によって作り上げていくものだと思います。

——それでは、最後に、まとめとPRを兼ねて、読者の方々へのメッセージをお願いいたします。

冨田：京都生まれではありますが、「おこしやす」とか、「おおきに」は使った事がありません。使う言葉や話のスタイルは状況によって異なるでしょうし、実際に使うかどうかには様々な要因が働いており、またその事が言葉そのものに影響を与えます。ことばが生きていると言われる所以だと思います。今回、日頃思っている事を聞いていただき、また、この言葉を使う機会を得られて、本当にありがたいと思っております。山形大学人文学部人間文化学科での4年間が皆さんの人生にとって実り豊かなものであり、深く考えたことや様々に学んだことが、その後の生活において支えとなり、そして皆さん誰もがもっている才が開花することを切に願っています。大切な時期を共に過ごすことができることは大きな喜びです。おおきに。



Generative Approaches to Language Acquisition North America でのポスターセッション

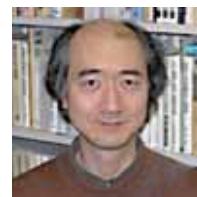


International Conference on the Linguistics of Contemporary English での口頭発表

# 公共政策コースの充実を検討しています

学科長  
インタビュー

岩田浩太郎  
法経政策学科長・教授  
(日本経済史)



——ご自身の紹介を一言、お願いします。

岩田：こんにちは。日本の社会経済史を専攻しています。学科長2年目の今年は、学科の将来計画に力を入れています。

——法経政策学科では色々と課題を検討しているようですね。

岩田：はい。まず、将来計画委員会を設置し、3つの教育コース（法律、経済経営、公共政策）毎にディプロマ・ポリシー（学位授与の方針DP）とカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針CP）を作成しました。これらは各コースの教育方針を公表し、卒業までに学生が身につける諸能力をあきらかにするもので、いわば大学における教育の質保証と学位の通用性を世間に宣言するものです。

——全国の大学でも進めているDPやCPづくりのことですね。

岩田：そうです。とくに公共政策コースでは、社会科学の基本科目を広く学ぶ方針にプラスして、社会問題を学生自らが発見し政策立案などに取り組む問題解決能力を身につけることをDP・CPで明確化しました。

——方針を実現する具体的な計画はどのようなものですか？

岩田：現在のスタッフに不足している地域調査実習を本格的にできる人材と政策立案の実情や理論に詳しい人材を得たいと委員会や学科会で話し合いました。前者には「地域づくり特別演習」などを担当してもらい、希望する学生を地域に連れて行き、地域が抱えるナマの課題を調査し自ら発見する実践的な教育プログラムをさらに充実してもらいたいと期待しています。後者には環境・災害・貧困・格差・高齢化など様々な政策課題を具体的に政策化する際の公共的な規範や方法などについて教育してもらうことを期待しています。

——最近の公務員試験でも政策立案能力が問われるようですね。

岩田：そうです。後者には「公務員対策セミナー」なども担当してもらい、学生が政策立案能力を身につけ国家公務員総合職や地方公務員上級の試験でよい成績を得られるように教育してもらいたいと考えています。

——大学の社会連携活動の充実にとっても重要な人材ですね？

岩田：山形大学は、3.11東日本大震災後の救援活動にいち早く参加する体制を築きました。人文学部でもこれに加わっているスタッフがあります。また、日常的に山形県の様々な自治体と連携して地域課題の研究や政策の立案に取り組んでいます。こうした地域連携活動の強化にとってもこれらの人材の確保は重要だと考えています。

——法経政策学科の実践力を高めて魅力をUPさせたいですね。

岩田：はい。学科の公共政策コースでは学士（政策科学）を、大学院の社会システム専攻では修士（政策科学）を授与しています。その名に相応しい教育内容を充実させたいと思っています。学科に入學する学生の学力も近年少しずつ上昇していますので、学科スタッフ一同が協力して質の高い教育をおこない、期待に応

えたいですね。



古文書の目録づくり  
(柏倉九左衛門家にて)

——岩田先生のゼミでは、活発に地域調査を進めているときますね。

岩田：私のゼミは日本経済史演習というゼミで、主に江戸時代から昭和戦前期の山形県の古文書資料の調査研究をしています。村山地方でかつて地主や商人だった旧家を訪ねて古文書を撮影させていただき、解読と分析をして共同研究をまとめ、旧家のご家族や地域の方々に発表する活動を続けています。2002年度からは、中山町大字岡の柏倉九左衛門家（本家）と柏倉惣右衛門家（分家）の調査研究を継続しています。柏倉家を保存し地域づくりに活用しようというNPO法人柏倉家文化村の活動にもゼミで参加しています。毎年、秋にNPOが主催する報告会でゼミ生が柏倉家の歴史について発表したり、春の雛祭りではボランティアとして柏倉家を訪れる見学者の案内をする活動をして交流を深めています。

——ゼミのほかでは、どのような地域連携の活動をされていますか？

岩田：研究の専門性を大切にしながら地域や行政の課題に協力するというスタンスで取り組んでいます。私は紅花の歴史研究をしているので、例えば山形県主催の紅花振興フォーラムで「最上紅花と地域振興」という講演をおこない、江戸時代の紅花栽培生産者の智慧や特産物紅花を活かした当時の経済振興・交流のあり方から現代に学べることをお話しました。今年の「柏倉家文化村まつり2011」では、座談会「京文化と柏倉家」のパネラーとして柏倉家の紅花生産や京都との交易について報告したり、「芋煮発祥の地」を宣言している中山町をはじめ村山地方の芋煮と京都の芋棒との最上川舟運や北前船を通じた交流の歴史などについて、京名物いもぼう平野屋主人北村憲司さん（料理家）や柏倉桂子さん（九左衛門家16代当主）と一緒に議論をしました。また、旧家で調査をしていると、あたらしく古文書が発見される場合があり、その時は目録づくりから地道におこないます。3.11震災で蔵に亀裂が入った山形市のある旧家の古文書や民具を保存する取り組みもおこなっています。

——先生の益々のご活躍、そして今後の法経政策学科が楽しみですね。



座談会『京文化と柏倉家』の様子

# —地域に根ざし世界を目指す—

## 人文学部プロジェクト研究「ナスカ地上絵」の学際的研究

人間文化学科 教授 本多 薫 (情報科学)

人文学部では、ナスカの地上絵について、文化人類学、地理学、心理学、情報科学などの専門の異なるメンバーによる学際的研究を行っています。ナスカ台地全域の地上絵の分布を調査・分析することにより、環境との関係や地上絵が制作された文化的背景、役割などを明らかにすることを研究目的の一つとしています。現在、精度の高い地上絵の分布図を作成するために、人工衛星画像の分析と現地調査 (GPS測定を含む) を行い、地上絵の描



ラインセンター(マウンドからラインが出ている)



真直ぐに伸びるラインと現地調査を行う門間政亮さん



かれている位置のデータベース化を進めています。

地上絵には、動物、植物、幾何学图形、ライン(直線)などが1,000点以上あります。しかし、動物、植物は少数で大部分を占めているのがラインです。このラインが集まっている「ラインセンター」があります。これまでには、62個のラインセンターがあると言われていました。しかし、人工衛星画像の分析と現地調査をしてみると、100点以上のラインセンターがあることがわかりました。このラインセンターの役割は不明です。しかし、私はこれまでに明らかになったラインセンターの配置などから、ナスカ台地に人の移動や情報を伝達するネットワークが存在したという仮説を立て、ラインセンターの分布を検討しています。今年度の現地調査(ナスカ)では、人文学部卒業生(門間政亮さん)が参加し、実際にラインを歩き、当時の人々がどのようにナスカ台地を歩いていたのかを調査しています。

# 「山形の偉人再発見」研究教育

## 都市・地域学研究所の担うものとは

山形大学都市・地域学研究所 所長 松尾剛次 (宗教学・歴史学)  
(人文学部人間文化学科 教授)



——これまでどのような研究を行ってきましたか。

都市・地域学研究所は、2002年に発足以来、山形地域を中心対象とする学際的な研究を行い、公開講座「山形の魅力再発見」の開催、紀要『山形学研究』の発刊などを通じてその成果を公開してまいりました。今年の2月には都市・地域学研究所は10周年を迎え、10年間の成果をまとめた『山形学』という本を上梓しました。とりわけ、平成22年度は、画期的な年となり、単なる地域研究組織から、地域連携の拠点として脱皮をとげつつあります。そうした活動の一環として昨年12月の本研究所と山辺町との連携協定の締結があります。

——今年はどのような活動を行ってきましたか。

今年は、学長裁量経費をいただいて、「山形偉人再発見プロジェクト」を打ち立て、安達峰一郎と最上義光を取り上げました。まず、安達峰一郎に関して。本年5月には安達峰一郎のゆかりの地である、オランダ・ハーグやベルギー・ルーベンを、結城章夫学長を団長として訪問し、国際司法裁判所所長の小和田恒氏を表敬訪問したり、安達が復興にも協力したルーベン大学を訪ね、安達が寄贈を仲介した3,000冊もの日本学関係の図書の存在を知ることができました。こうした予備調査を踏まえて、10月31日から11月6日まで、私を団長(松本邦彦准教授・丸山政

己准教授とともに)として再度ハーグと新ルーベンへ調査訪問しました。主に安達が所長として出した公的な文書やルーベン大学にどのような日本関係図書が寄贈されているのか調査しましたので、今後目録化する予定です。

6月18日には安達峰一郎記念世界平和リレー行進を行い、平和の精神を幼稚園児・小学生にリレーしようと試みました。11月21日には、ルーベン大学のウイリー教授を招いて安達峰一郎とベルギーとの関係について講演会を開催しました。また、11月26日には、第一回安達峰一郎記念世界平和弁論大会を都市・地域学研究所と山辺町共催で開催しました。全国の中高生に呼びかけ、400人近くの応募者の中から、中学生4名、高校生3名を招いて、弁論大会を開催しました。

最上義光については、私が、今年、新発見した7点もの最上義光文書などを使って、公開講座などで報告を行ないました。また、2014年は義光没後400年ですので、2014年には義光関連のイベントを開催すべく、講演会を行うなど、啓蒙活動に努めています。

——今後はどのような活動を行うか。

しばらくは、「山形偉人再発見プロジェクト」を継続し、安達峰一郎や最上義光に焦点を当ててゆくつもりですが、井上ひさしや織田信長など山形県にゆかりの他の人物にも手を広げてゆきたいと考えています。

安達峰一郎記念保育所等の子供たちから山形大学への熱いメッセージに応える結城山形大学長、遠藤山辺町長、松尾山形大学・地域学研究所所長、澤田同副所長



# 研究教育活動の紹介

人間文化学科 准教授 中澤 信幸  
(日本語学)



——先生は身近にある漢字を専門にしていらっしゃいますが、具体的には?

**中澤**: 私の研究分野は日本語学です。漢字も日本語の一部といえますが、主に歴史的な側面から漢字音など日本語の音韻を中心に研究しています。

——録音機械がなかった時代の日本語の音韻をどうやって調べるのでしょうか?

**中澤**: 現代の中国語は北京語が標準語ですが、広い中国には様々な方言が残っています。その方言や古い文献から昔の発音を推定します。そして『万葉集』や『古事記』、『日本書紀』などは全部漢字で書かれているので、漢字と発音をつき合わせて古代日本語の音韻を調べるのです。また江戸時代や明治、さらには現代の漢字音についても調べています。

——先生はなぜ漢字について研究するようになったのでしょうか?

**中澤**: もともと私は日本文学が好きでした。ところが古典文学を勉強しているうちに、物語の内容よりも漢字や言葉そのものの面白さに目覚めていきました。そのなかでも特に漢字の音韻や古典文法に興味を持つようになりました。音韻・文法とも現代とは違うところが大変面白かったです。

人間文化学科 教授 淺野 明  
(西洋史・ロシア中世史)



——先生のご専門は西洋史学ですが、具体的には?

**浅野**: 16・17世紀のロシアの歴史を研究しています。といっても、ピンとこないでしょうね。ロシアの歴史は、高校の世界史でも簡単にしか教えられないし、そもそもロシアという国が日本では人気はありませんから。ところで、ピョートル大帝はご存知でしょうか? この人は18世紀初めの支配者で、一連の改革を行ってロシアの針路を西欧の方向に向けました。しかし、実はその動きはもっと前から始まっていて、転換期としては、むしろ17世紀が重要だというのが最近の理解です。いずれにせよ、17世紀というのは、とても興味深い時代です。

——ロシアには、いいイメージがないのですが…。

**浅野**: ロシア史に限らず、ある国の歴史を勉強すれば、あれこれ言いたいことが出てきますよね。でも、そのとき、少し心にゆとりを持つことが大事だと思います。ロシアでは、庶民の暮らす世界と、政治を行う役人たちの世界がまったく断絶していました。それでいて、一つの国であることが求められていました。ロシアの抱える問題の多くは、ここに由来します。庶民も芸術家も、そして権力者さえも、心ある人々はみな、この現実に苦悩してきました。これは、いまでもそう変わっていないと思います。日本の感覚で、ロシアの政治を非民主的だと批判するのは簡単です。しかし、ロシアの政治体制にも、歴史的な理由があります。大統領や首相だって、お気楽に権力を振るっているわけではないのです。それに、日本の現実だって……。

法経政策学科 講師 和泉田保一  
(行政法)



——先生は行政法を研究していらっしゃいますが、具体的にはどんなことを研究しているのでしょうか?

**和泉田**: 行政法は、憲法や民法などとは違い、単独の法律を研究対象とするものではなく、生活保護法や建築基準法など、六法の三分の二を占めるといわれる公法領域に分類される法律を扱います。そのような法律に共通する指導原理を探求するのが行政法学の役割ということになりますが、私はの中でも、特に、マンションや大規模小売店建設のような開発を、地方公共団体がどのように制限し得るかに関して研究しています。

——先生はどうして行政法を研究することになったのでしょうか?

**和泉田**: 大学を出て地元の市役所で12年間働いていました。地域や地元の人のために働きたいと思ったからです。しかし、自分としている仕事が地元の人のためにならないことに気づき、市役所を辞めて大学院で勉強し直そうと考えました。そこで、行政法学と先ほど説明した問題に出会いました。

——みなさんにお願いします。

**和泉田**: さだまさしさんの歌の一部を借りて言いますが、「がんばらない、あきらめない、夢を捨てない」という言葉を贈りたいと思います。

法経政策学科 准教授 田北俊昭  
(地域ブランドに基づく地域計画、都市経済学、情報経済学)



——田北先生の専門領域を教えてください。

**田北**: 都市・地域経済学、情報経済学です。最近ではもともとの専門の地域計画もやっています。

——具体的にはどのようなものなのでしょうか?

**田北**: 都市経済分野は、企業・世帯・政府立地モデルをモデリングしシミュレーションするものです。最近では道州制導入によって中央政府と地方政府の関係がどう変わるかについて分析しました。地域経済分野では、地域ブランドの価値評価の研究を始めています。山形県産のさくらんぼは果物の女王と呼ばれるほど価値が高いです。最近では山梨県産や青森県産、外国でも佐藤錦が作られていますが、同じ商品でも山形という名前で4000円くらい評価が違うと結果も出ています。山形にはつや姫や米沢牛といったブランドもあります。そのネームバリューを高めるために古くは新聞や雑誌、ラジオやテレビ、今ではインターネットといった情報媒体を通じて知名度、つまり「情報の価値」が上がる、情報経済分野では、総務省と携帯電話の需要分析、またバーチャルユニバーシティの普及分析を行い、最近では3次元仮想世界の有効性を分析し、新通信システムを構築するため、東北大電気通信研究所と連携し仮想現実技術と社会の融合の研究も始めています。地域・情報分野として、地域ブランド発掘ないし知的財産保護等の知的財産戦略を考慮した地域経済の活性化、特に農業や地域資源を活かした潜在的な地域発展のメカニズムも研究をしています。そのため、地域の方々や料理家、芸能関係の方との協働を通じて進めています。

# Formosa !! 麗しき台湾ワール

## ～異文化間コミュニケーション実習Ⅰを終えて～

今年度の研修先は台湾。高雄市の中山大学での中国語・中国文化研修を中心に、台北や高雄の市内見学や四大学合同学生交流会での発表など充実した研修になりました。

8/22 羽田空港発



### 台北観光～高雄到着

(文章:本田晶子、武田裕史、遠藤いづみ)



中正記念堂をバックに  
～出国間もないためか男女  
の間に微妙な隙間が…。



台北101を見上げる

⇒中正記念堂、故宮博物院を巡り、この日最後に訪れたのが台北101。高さは509.2mで東京タワーを凌駕します。驚いたのは、内部のエレベーターの速度です。5階から89階まで僅か37秒で移動します。89階は高さ382.2mなので、なんと秒速約10.3m！

「台北101」はなぜ「100」ではなく「101」なのでしょう？これは「100を越えて更なる高みを目指していく」という願いも含まれているそうです。

⇒89階の展望台からは台北市を一望でき、四方の地形や街の構造がよくわかります。無料の音声ガイド機を使えば、台北地域に対する理解をより深めることができます。

時間の関係上、その他の展示を全て見ることはできませんでしたが、台北市の地理を知るには最適な場所です。一目瞭然！台北へ訪れるなら、迷わず台北101観光をお奨めします。



台北101からの眺望

day	1	2	3	4	5	6	7	8	9
am		台北見学 故宮博物院	授業の説明 中国語 プレースメント	中国語	中国語	自由活動	高雄郊外 見学	中国語	中国語
pm	羽田発 14:40	中正記念堂 台北101 総統府 夕方 台湾高速鉄道で高雄着	歓迎会 高雄見学 自由活動	昼食	昼食	四大学 学生交流会 文化体験 (中国結) パーティー	屏東原住民 文化園区 三地門見学 ※台風のため 中止	昼食	自由活動



ツアーコンダクターの阮さんの  
説明を聞く

⇒前日台北に到着し翌日は台北市内観光。中正記念堂には、特に孫文と蒋介石にまつわる品(蒋介石の執務室や、亡くなった時間の時計、愛用のベンツなど)があり、ツアーコンダクターの阮さんの説明を聞きながら見学しました。福山先生の「楽しく、真剣に」の言葉通り、みな説明には真剣に聞き入っていました。

### 中山大学での研修

(文章:樋渡翔、小室瑛美、中野朱理)

⇒研修のメインは中国語の授業です。琉球大の学生とともに能力別クラスに分かれます。先生(写真ホワイトボード前)との距離が近く、グループワークのように会話を交えての授業です。手に持っているのは教科書ですが、先生とのやりとりが中心です。



高雄・旗津の海鮮料理店。海老に貝、魚にホタテ……。  
炒め物やスープなど調理法も多彩



⇒高雄到着後、福山先生と中山大学の胡先生に海鮮料理店に連れて行ってもらいました。お店のある旗津は、宿泊した中山大学の寮のすぐ近く…。ですが、フェリーで海を渡った対岸にあります。新鮮で多彩な料理をみんなで美味しいいただき、大いに盛り上がりいました。台湾の「加糖」された甘いお茶も始めて飲みました。



ざらりと並んだ海鮮。  
好きな材料を選び調理  
方法を指定します。

⇒完成した中国結びの飾りです。一本の紐で編み上げられている花のデザインは可愛らしいですね。また竹には様々な「教訓」が書かれています。

⇒中山大学のキャンパスで出会うことができます。公園に隣接しており、日本バスです。人慣れしておられる分には可愛らしいで、お菓子などを奪っていく



## 高雄街歩き

(文章:石井優里亞、庄子真央、莊田沙耶花、大塚武志)



⇒7日目は台風の影響で郊外見学

が中止に。急速、琉球大生と中山大生、山大生でカラオケに行くことになりました。日本の曲(LOVEマシーンとか)もありましたが、驚いたのは、何とカラオケに飲み放題食べ放題がついていたこと。みんなで歌つて食べて盛り上がりました~。



⇒高雄最大の夜市、瑞豐夜市の様子です。観光客向けの六合夜市と違って、地元客向けなので価格も比較的安いそうです。実際、惣菜パン?が三つで50元(日本円150円くらい)だったりと、思わず財布のひもが緩んでしまう安さでした。

9	10	11
中国語	中国語	台北発9:00
昼食	昼食	羽田着
文化体験 (篆刻)	午後 台湾高速鉄道で台北着	



⇒中山大学近くにある旧英國領事館です。小高い丘の上に建てられており、高雄の町を一望できます。

砲台跡もありまるで要塞です。レンガ造りの近代的な建物なのに、中は迷路みたいです。中には当時の様子がマネキンで再現されているほか、厨房や売店、喫茶店も入っています。

⇒高雄名物マンゴーかき氷。南国ならではの大盛り! 高雄ではいたる所にかき氷屋が立ち並んでおり、マンゴー以外にもフルーツや緑豆などメニュー豊富です。1人前から特大サイズまで器の大きさを選べます。ゴロゴロと入っているマンゴーは甘くてとてもおいしいですよ♪



## 学生交流会～パーティー

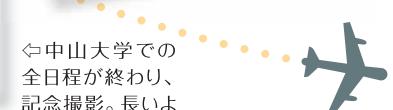
(文章:鈴木春菜、齋藤薰、荒木涼、横山芳恵)



⇒⇒6日目には、山形大・琉球大と台湾の中⼭大・文藻外語学院の4大学合同での学生交流会が開かれました。それぞれの大学が自分の地域の文化や特色を紹介し発表しました。我が山大班は4つに分かれ、日本文化や花笠や樹氷などの山形文化を紹介しました。我々の班はがんばって中国語で発表しました! やればできる!



⇒発表会後にはパーティーが開かれました。琉球大そして台湾の学生と、境界を越えたまさに異文化交流!特に文藻外語学院の学生は日本語がとても上手なのに、パーティー会場でも日本語について質問するなどとても勉強熱心でした。日本人も見習わなければいけません…。新しい友だちをたくさん作ることができ、とても楽しく有意義なパーティーでした。



⇒中山大学での全日程が終わり、記念撮影。長いよ

うで短い高雄の研修もこの日が最後。前日は台風で宿舎から一歩も外に出られず授業も休講でしたが、最終日は無事に授業が行われました。中山大学でお世話になった先生や院生の方々との別れはとても辛かったです。

⇒中国語以外に中国文化体験の授業もあります。写真は中国結び体験の様子です。針を使いながら結いあげていくのですが、なかなか難しくみなさん悪戦苦闘していました。



⇒研修最後の授業は歌の授業です。洪先生の指導のもと3グループに分かれ合唱に挑戦です。その場で初めて聞いた台湾の曲でしたが、中国語の歌詞を見ながら楽しく歌うことができました。この頃にはピン音もしっかり読めるようになり、研修の成果を実感。



⇒宿舎近辺の町並み。雑多な雰囲気ですが、港が近く夜景が美しいです。食事処も多く、コンビニも近いため毎日の生活に不自由は感じませんでした。



9/1  
羽田空港着

# 地域づくり特別演習(一)

人文学部法経政策学科 教授 下平裕之

「地域づくり特別演習」は、平成17年度より人文学部共通科目として開設された、山形県金山町における現地実習を中心とする夏季集中講義です。この演習は金山町と協力して、学生の教育と同時に地域の活性化に貢献するという特徴を持っています。今年度は9月12~15日の日程で、金山町中心部に近い荒屋地区をフィールドとして実施しました。

——どんなことをしたのですか?

地域づくり特別演習は、1日目は地域づくりに関する基礎的知識を習得するための講習、2日目と3日目に1泊2日の現地実習を行うようスケジュールが組まれています。12日の事前講習では、地域づくりに必要な資源の発見・活用方法や実習で使うワークショップの手法などを学びました。13日の現地実習ではまず地区の方に案内してもらい、資源発見のためのフィールドワークを行いました。フィールドワークで調べた成果は、地域資源の一覧表と荒屋地区の地域づくり理念という形で学生自身の手でまとめられ、その成果を地区の方々との意見交換会で発表しました。14日には前日の成果を踏まえ、地域資源マップ作りを行いました。

——どんなことを学ぶのですか?

この演習で学生は、単に地域づくりに関する知識や技法を理

解するだけでなく、それを金山町で実践することにより、グループワークでの協同関係や自分たちの調査結果をわかりやすく伝えるために工夫すべき点などを身につけることができます。今年は特に、地域のさまざまな資源が地域の個性を作り、それを生かすことが独自性のある地域づくりにつながるということを、荒屋地区的地域資源の評価とそれをもとにした地域づくり理念の作成という過程で学んでもらうことを重視しました。

——学生の皆さんへメッセージはありますか?

この科目は「演習」という名前が示すとおり、学生の皆さんのが主体的に関わっていく内容となっています。地域づくりについて仲間たちと協力しながら新たなアイデアを出していくことは、単なる学習以上の充実感をもたらしてくれるでしょう。皆さんの参加をお待ちしています。



意見交換会の様子



屋外での実習の様子

# 地域づくり特別演習(二)

人文学部人間文化学科 教授 山崎 彰 人文学部法経政策学科 准教授 松本邦彦

——今回のテーマは何ですか?

地域づくり特別演習(二)は、主に山形市で活動する市民団体に受講生が参加する実地体験型の授業ですが、東北大震災に際し学生のボランティア活動への参加を後押しするために、今年度から被災者・被災地支援の部門を新設しました。

——それぞれにどのような活動をしましたか?

市民団体での研修部門では2人の学生が履修し、地域に居住する外国人(主に女性)を対象に日本語習得を支援する「山形ボランティア日本語協会」と、障害をもった子どもたちのためのサービスを提供しているNPO法人「障害者の地域生活を支援する会」にてそれぞれ活動させていただきました。被災地支援の部門でも2人の学生が活動しました。宮城県塩釜、松島で草刈り、ホタテ貝の洗浄、塩害対策ためにひまわりの種



メンバーの活動の様子

をまいり、学生の地元の仙台市宮城野区で泥の掻き出しや洗浄などをおこなってきました。

——活動報告会はおこないましたか?

被災地支援について、本演習以外でも活動している学生たちも含めて8月1日夕に活動報告会をおこなわせていただきました。たとえば「震災復興支援プロジェクト」として活動している学生たちは山形市内の避難所のほか、宮城県東松島市、石巻市で活動し、特に食中毒や感染症防止のための除菌活動に力を入れています。また人間文化学科の三上先生のゼミを中心に、「山形文化遺産防災ネットワーク」の一員として、被災した古文書を人文学部でクリーニングする活動をおこなっている学生もいます。

——このほかにどのような活動をおこないましたか?

市民団体の活動について学生の理解を深めてもらうため、様々な活動をしている団体の方をお招きした交流会を5月から月1回ほどの割合で開催しました。震災復興支援や映画祭、日本語教室、障害者支援、育児支援などの団体の方に来ていただきました。そこでは人文学部生に加え、地域教育文化学部や理学部からも学生や先生の参加がありました。今後も学生の理解と関心を高めつつ、各団体の協力を得ながら活動を進めていきたいと考えています。

# 文化財調査実習

人文学部人間文化学科 准教授 三上 喜孝

## ——文化財調査実習とは?

文化財についての基本的な知識を学びつつ、実際に現地に赴いて文化財がどのように伝えられ、活用されているかを調査し、文化財について理解を深めるという実習です。毎年秋に、3泊4日で、奈良や京都の「古都」の文化財をめぐっています。今年度は、10月26日(水)~29日(土)の日程で行い、13名の学生が参加しました。

## ——そもそも文化財とは?

この実習の対象となるのは、おもに「有形文化財」といって、古墳や寺院などの遺跡・建造物や、考古資料・仏像などの美術工芸品、さらには古文書などの歴史資料などです。これらの文化財に間近に接することによって、「本物を見る目」を養うのです。

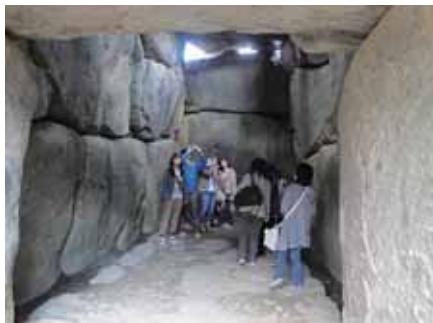
## ——実習のスケジュールは?

まず、実習の前に、数回にわたって事前学習会を行います。履修する学生がそれぞれ分担を決め、見学場所やそこにあるさまざまな文化財について調べたことを発表してもらいます。

さて、いよいよ実習当日です。1日目は、奈良県明日香村の遺跡や寺院を、自転車でめぐります。奈良県明日香村は、古くは「飛鳥」と呼ばれた、6世紀から7世紀に都が置かれた地域でした。いまはのどかな田園風景が広がっていますが、なぜこの場所に都が置かれたのか、地下に眠る埋蔵文化財は、私たちの想像をかきたててくれます。



平城宮朱雀門



石舞台古墳内部

れます。

2日目は、平城宮、東大寺、興福寺など、古都・奈良の中心地をまわります。しかし何といってもメインは、奈良国立博物館で開かれる正倉院展です。毎年10月末から11月初めのごく限られた期間、ふだんは見ることができない東大寺・正倉院に伝わる奈良時代の宝物群を見る、絶好の機会です。正倉院宝物は、日本における文化財保護のルーツといつても過言ではありません。じつはこの実習は、この正倉院展が開かれる時期に合わせて実施しているのです(今年度は実習最終日の10月29日に見学しました)。

3日目は、場所を京都に移し、各人があらかじめ立てた計画に従って、古都・京都の文化財を自由にまわってもらうことにしています。そして最終日の4日目、全員で京都の文化財をめぐり、夕方に京都駅で解散します。

## ——この実習の意義は?

現地に赴き、本物を見ることは、私たちに大きな感動をもたらします。大事なことは「感動する心」です。それが、文化財を守る際の大きな原動力となります。1人でも多くの人が、実際の文化財にふれて感動する機会を持つことを、私は望んでいます。

しかしながら、文化財が私たちの生活や社会と共存していくには、じつは難しい問題がたくさん立ちちはだかっています。どうしたら文化財と共存できる社会を作り上げていくかが、これから問われていくことになるでしょう。

## ——最後に、学生へのメッセージをお願いします。

文化財を守り、活用することは、過去に生きた人々と私たちが共存しながら社会を作り上げていくことだと思います。過去に生きた人たちが私たちにさまざまな遺産を伝えてくれたように、私たちもまた、それを後世に伝えていかなければなりません。文化財調査実習が、そのことを考えるきっかけになればと思っています。

# 人文学部外国人留学生実地見学旅行

大学院社会文化システム研究科 院生 孫 震

7月9日と10日の2日間、人文学部外国人留学生実地見学旅行に参加しました。今年は大学院と学部の留学生21名と教員2名、職員2名の総勢25名が参加して、秋田県男鹿半島へ行きました。短い2日間でしたが、一生忘れない程の良い思い出となりました。

旅行初日、遊佐町にある旧青山本邸(国指定重要文化財建造物)を見学した後、私達は男鹿真山伝承館において「ナマハゲ」の習俗を体験しました。暗い和室の中で、私たちは「ナマハゲ」の登場を待っています。「ナマハゲ」が外から重い足取りで近づく中、扉が突然、開かれます。喉から怖い声を出しながら、「ナマハゲ」が入ります。この後「ナマハゲ」の行動を20分ぐらい見て、私は少しだけ「ナマハゲ」文化を理解しました。鬼の面をした「ナマハゲ」は秋田県の伝統文化として、大晦日の夜に行われている行事です。



「ナマハゲ」の文化体験の様子

慢などを戒めているのです。

旅行2日目の午前中に入道崎を見に行きました。青い空と青い日本海と相まって、とても美しい風景が見られて、気持ちがよくなりました。次の男鹿水族館GAOでは、白熊の豪太くんと近距離で触れあうことができました。昼食で食べた「きりたんぽ鍋」はとてもおいしかったです。

年に1回実施される人文学部の留学生実地見学旅行をいつも楽しみにしています。旅行をして、身を持って現地の風土や文化を体験することは最高の愉しみです。今回の旅行のおかげで、私はふだん学校や教科書で学べられないことをたくさん勉強することができました。チャンスがあれば、私は次回のこの旅行に必ず参加してみたいと思っています。



参加者の記念写真

# 地域とともに

人文学部では、学生だけでなく地域の皆様にもご参加いただける公開講座・学術講演会を実施するとともに、地方自治体や海外大学・研究機関とさまざまな交流をしています。

## 今年度の公開講座

### ◆前期公開講座(人間文化学科)

#### 遠い方言、近い方言

人間文化学科 森岡卓司准教授

平成23年度の前期公開講座（人間文化学科）「遠い方言、近い方言」では、私たちが身近に感じていながら、しかし本当のところはよくわからないことも多い「方言」について、国境・時代を超えたさまざまな側面からとりあげました。登壇したのは、言語学と文学を専門とする講師陣です。



講座の中では、アイルランドで用いられる英語、現代日本の若者たちの会話やメールに登場する方言、フランスの歴史的背景を持つ多言語状況、状況による方言の使い分け、そして山形をはじめとする日本の民話や伝承に登場する方言と、まさしく多種多彩な題材が登場し、単なる「珍しい言葉」ではない、人々とともに「生きている方言」の姿が浮き彫りにされました。真剣な中にもユーモアのあふれる講師陣の語り口に、受講生の関心も非常に高く、最終日に行われた、講師2人をmajiedした会場トーキセッションも、大変盛り上りました。

なお、今回の公開講座をもとにした本が、24年3月に山形大学出版会から刊行される予定です。昨年度の公開講座講師も執筆陣に加わって、ことばとそれを使う人間の深くて面白い関わりに皆さんをご招待します。是非ご期待ください。

#### 【受講生の感想】

#### 私は、ポスターを見て、即受講を決めた。

長沢和代（山形市）



第一回のアイルランドについての授業ではノーマルな英語にはない言い方に、アイルランド人には、しつこく感じる感覚や、直接言葉では表現されてはいないけれどもそこに含まれている気持ちがあることを知りました。今、改めて授業を振り返ると、毎回の多様な角度からの先生方の授業の中に、色々な意味で、そのことが共通して底にあったような気がします。

東京の電車の中で方言を話す知人とは、六割の人が方言で話すという調査結果がありました。又、彼と彼女のメールのやりとりで、ズーズー弁が、他の人とは違う関係であり、親しいことを共有し合うデコレーションとなっているとか……。方言が繋がりを強めてくれるのかもしれません。

文字となった語りや呪文などの方言は、全く違う感じがしました。やはり方言は、話し言葉であり、耳から聞く言葉だなと思いました。方言には話す人の声があり、声や顔や目や身体の表情があります。話し言葉には、相手に伝えたいものがあるから、そういう様々な表情となって現れるのでしょうか。逆に、メールは文字だから、気持ちを伝えるために様々なデコレーションを使っていると、やっと私は気づきました。

今回、エディット・ピアフがなまっていることを知りました。ピアフは下町の自分の言葉で『愛の讃歌』を歌いあげているのです。今回の一連の授業で、方言の豊かさをつくづく感じ、方言が繋ぐ人ととの関係に思い当りました。授業を頂いた全ての先生方に心から感謝を致しております。

### ◆後期公開講座(法経政策学科)

#### ポスト震災を考える これからの社会のあり方

法経政策学科 赤倉泉准教授

平成23年度後期の公開講座（法経政策学科）「ポスト震災を考える　これからの社会のあり方」では、震災を経て身近な問題となつた、これからの社会のあり方というテーマについて、政治や経済の侧面から考えていきました。

今回の講座では、望ましい社会のあり方をめぐり、地域コミュニティの再生、社会的企業の育成、リサイクル政策の問題点、日本の厳しい現状を直視することの重要性、原発政策を支えた思想的背景、などの各テーマを取り上げています。一連の解説を通じて明らかになってきたのは、これから社会では、国や行政に依存するのではなく、自立的な地域社会や個人を育んでいくことがポイントだということです。

最終日には講師全員によるパネルディスカッションが行われ、受講生からの積極的な発言を交えた活発なやりとりの中で、時には笑いも起こり、教室は一体感に包まれました。講師の熱意を反映して受講生の意識も高く、講座は終始活気にあふれていました。



熱気のあるパネルディスカッションの様子

#### 【受講生の感想】

\*大変勉強になった。論理的思考法を教授していただいた。

\*「震災」に対する考え方の参考になった。

\*期待していたよりずっと深い内容を学習出来たと思う。

しかし、これをすぐに行動にしようとすると自分1人だけでは何も出来ない。

本当に少しあはあるが、自分の考えが前進する事ができた。

講義を聞く前よりも震災に関して人に話し、自分自身でも震災の対応策に関して、前進出来た様な気がする。

\*啓発されることが多い。教授陣のいい意味での変化を感じられた。

\*先生方が熱心なので、とても刺激を受けた。

\*大規模災害時には政治経済はもとより、医療・建築土木・地理学・情報通信等々広範な考究テーマがあり、限られた講座日程の中で、各先生方が、指導内容に苦慮されたことが伺われた。

壮大な内容のテーマなので、日程や時間を拡充しても良かったと思われる。

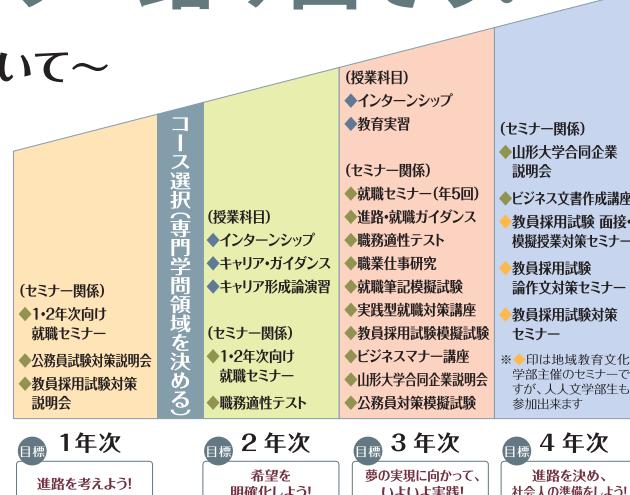
\*テーマが大きいこともあり、焦点がぼけた感じがするが、その中で今後の地域や組織の有り方が何となくつかめた気がした。

# スタート!就活の道のりへ踏み出そう!

## ～人文学部の就職支援プログラムについて～

人文学部では、1年生から4年生まで、みなさんの就職活動を支援するために、多彩なプログラムを準備しています。

人文学部のキャリア支援プログラムでは、1年次から就職セミナーや公務員試験対策説明会や教員採用試験対策説明会が開かれます。2年次になると、インターンシップやキャリアガイダンス、キャリア形成論演習、各種セミナーや模擬試験がはじまります。3年になると、就職セミナーや合同説明会もはじまり、いよいよ就職活動です。AGORAファンの高校生や一般人、卒業生の方にも、山形大学人文学部のこれまで進めてきた教育をもとに卒立った卒業生のご活躍を知りたいです。



平成22年度 人間文化学科卒業 白川 裕美子「生活協同組合コープあいづ」勤務



サービスカウンターにて

## 卒業生インタビュー

皆さん、こんにちは。私は現在、生活協同組合コープあいづの一店舗で、サービスカウンターの業務を行っています。その主な仕事は、お客様の窓口としての諸手続きの受付や要望への応対、部門との連絡、レジの補助機能や出納関係などです。

私は働き始めてから、社会人の常識として、特に次の三つの考え方を学びました。それは、効率性、周囲へのサポート、広い視野です。作業の迅速性や、周りに対して常に気づきの姿勢を心がけることは、仕事を質の向上にも繋がるものです。

一方、欧米文化論に所属していた学生時代の経験も活かされています。専門では様々な外国の理論等に触れたり、演習において他人と意見を交換する機会が多く得て、人との関わりに役立つ、異なる価値観を受け入れる姿勢を養いました。

また、仕事を通してその必要性を改めて実感したのは、笑顔

と相手への気配りです。お客様に気持ち良く過ごして頂くにはどうしたらよいかと考えた時、笑顔でお迎えすることや、相手の気持ちを推量して動くことが大事だと感じました。

私は就活中、地元志向と共に、奉仕精神を重視していました。理想を大切にした働き方は、私のやりがいに繋がっています。

東日本大震災後、会津地方には特に原発事故による避難者の方々もおられ、不安を抱えながらも日々を過ごしている人々の為に少しでも役に立てるよう、まずは着実に仕事をこなせるようになりたいと、努力している最中です。

しかし、こうして今仕事に打ち込めるのは、充実した学生生活があったからこそだと思います。皆さんが学生時代を満喫し、自分の希望通りの働き方ができることを心から応援しています。

夢をあなたと

## 世界を見据えた熱いメッセージ

活躍する卒業生

## 夢を持っている人間だけが夢を実現できる

— ヨーロッパのワイナリーに匹敵する100年後の山形をつくりませんか? —



奥山 徹也 高畠ワイナリー 代表取締役相談役  
(昭和45年3月 山形大学人文学部経済学科卒業)

私は、昭和21年7月の戦後混乱期に内戦の最前線でもあった満州で生まれました。その後、父が炭坑に勤めていた北海道、炭坑を辞めた後は千葉などで暮らしました。そして、山形大学人文学部経済学科に入学しました。就職のために一旦山形を離ましたが、妻と結婚して、再び山形の地を踏みました。

山形大学に入学間もない頃、学生は皆、「自分たちの手で社会を変える」といった高い意識があり、300人程の寮生と一緒に暮らし、昼夜語り合いました。5人部屋もあり、365日間、学寮の灯りは消えることはありませんでした。飲んだ友人がそのまま自分の布団の中で寝ているなど懐かしい思い出もあります。秋田の歌舞伎役者のような先輩は高級煎茶を飲ませて、熱く語ってくれました。昼の活発な学生運動のときに出でてくる教官は、私たちが七日町で二級酒を飲んでいると、私たちをつかまえて教え諭しました。しかし、教官からおこられた後で、いいお酒を飲ませてもらったのもいい思い出です。山形大学卒業後、私は商社に入り、その後に会社の設立もしました。これも不思議なもので、私はどうしても結婚したい教育学部出身の今の妻との結婚を機に山形に戻って仕事をすることにしました。

昭和51年に私が山形の酒問屋に入った頃、友人は、県庁職員や銀行員、教員として活躍していました。当時はウイスキーの人気がありました。経理をしながら、当時売れていたワインのラベルをみては勉強し、売れるための工夫を行いました。山形産のワインの品質管理、品揃え、説明等を改善してセット販売を始めたところ、売

れに売りました。昭和55年に、山形のワイン業界と酒造関係者と、ヨーロッパのワイン観察旅行も実施しました。その頃、山形駅前の十字屋で、甘口海外産デラウェアワインが女性に売れていたので、私は山形産デラウェアワインの販売促進を提案しましたが、社長から反対されました。あきらめなかつた私は、コルク栓を空けたサービスワインを1本つけて、酒屋をまわって、まずは酒屋の店主に飲んでもらい、その後お客様にも飲んでもらうやり方で売られに売りました。

私は転機が訪れました。45歳になって、突然、高畠ワイナリーの営業部長としての話が舞い込んだのです。私の妻はニコニコしていました。その当時、高齢の義父は小さな手芸店を営んでいて、私が「そろそろ仕事の引退を」とすすめたところ、私が将来仕事に困ったときに仕事を引き継げるよう辭めなかつたことを知って涙を流したものがありました。当時、高畠ワイナリーには、明治乳業から製造担当の社員が移っていました。親会社の南九州コカ・コーラボトリング株式会社からの社長でスタートしましたが、私しかワインの知識はありませんでした。私は夢中で仕事をやって5年で常務になり、専務、いつの間にか社長になりました。

現在、山形県は日本第3位のワインの産地です。私は山形のワイナリー100年計画をまとめました。ヨーロッパのワイナリーに匹敵するワイナリーを山形につくるのが夢なのです。ノートルダム寺院が300年かけてつくったように、また建築中のガウディ作品のように将来を見据えた計画を立てることが重要です。山形から高い志をもってチャレンジしていくことが大事です。夢を持っている人間だけが夢を実現できると信じます。私はこの会社を退社しても、また新しい会社をつくる、夢をひろげて行きたいと思います。

(平成23年10月15日に実施された山形大学ホームカミングデイから)

# 人文ニュース

今期、人文学部では行われた講話やイベントなど、  
主要なニュースをお届けします。

## 人文学部はオスナブリュック応用科学大学 経営管理・社会科学部(ドイツ)と学部間交流協定を締結しました

7月5日(火)、人文学部はオスナブリュック応用科学大学経営管理・社会科学部(ドイツ)と学部間交流協定を締結しました。

オスナブリュック応用科学大学は1971年に設立され、3学部(情報科学部、農学部、経営管理・社会科学部)3学科と、1つの(音楽に関する)研究所を持つ大学です。現在、学生数は1万人強、教員数は230人、100以上の海外の大学と協定を結び、在学生の海外派遣、外国人留学生の受け入れを積極的に行っている大学です。

オスナブリュック市は人口約17万人で、デュッセルドルフから鉄道で2時間たらず、ウェストファリア条約締結の地としても知られ、歴史的建造物も数多く残る美しい都市です。今回協定を締結した経営管理・社会科学部は、オスナブリュック市を一望できる高台に位置しており、経営管理・社会科学の実践的な教育研究で知られています。

本学部と海外の大学との交流協定としては、7件目になります。今後、研究交流、学生交流などを進めていく予定です。



オスナブリュックの街並み

## 本学部学生が 「ティーデマン・ふすま賞」受賞

2

10月28日(金)に山形グランドホテルで、「ティーデマン・ふすま賞」の授賞式が行われました。大竹智子さん(平成23年3月人文学部卒業)と石田志保さん(平成23年3月社会文化システム研究科修了)の卒業・修了論文が認められティーデマン・ふすま賞を受賞し、長沼龍平ふすま同窓会長より二人に賞状と記念品が贈されました。



受賞した石田志保さん(左)と大竹智子さん(右)

## 蔵王温泉観光協会が 学生震災復興事業に寄付

3

9月21日(水)に蔵王温泉観光協会役員の蔵王温泉商店会会長佐藤博明氏が本学部を訪れ、「人文学部震災復興支援学生プロジェクト」(代表:社会文化システム研究科1年遠藤大地)に対し、同協会作製の団扇売上金一部を活動支援援助金として152,042円が贈呈されました。



贈呈式の様子

## 第4回近世東アジア 比較都城史研究会開催

4

6月25日(土)26日(日)の両日、新宮学教授を中心に多数の研究者参加のもと本学部で開かれました。近世では、宋都の宮城正門前空間、元の大都の宮城の建築、朝鮮初期の昌徳宮後苑、琉球国首里城、清朝宮城空間とモンゴル王公、古代・中世では、唐長安の太極宮から大明宮、日本古代の宮城空間、北京城南内が取り上げられました。



北京宮城図軸(明、無名氏絵部分)

## 書籍・出版物紹介

### Loanwords in Japanese

Mark Irwin  
John Benjamins Publishing Company 2011年6月



Loanwords in Japanese is the first monograph in a Western language to offer a systematic and coherent overview of the vast number of words borrowed into Japanese since the mid-16th century. Its publication is timely given the fact the loanword stratum's recent exponential growth has given rise to recent Japanese government publications seeking to outlaw foreign vocabulary or, at the very least, offer native translations. Beginning with a history of loanwords, chapters cover loanword phonology, loanword morphology, loanword orthography and official and public attitudes to Japanese loanwords. The volume will be of interest to a wide range of researchers, scholars and students of the Japanese language.

### 山形学 —山形の魅力の再発見—

山形大学都市・地域学研究所  
山形大学出版会 2011年2月



都市と地域をキー・ワードに山形地域を主な対象として学際的な研究を行っている全学的組織“都市・地域学研究所”が創立10周年を迎えるにあたり、これまでの成果を1冊にまとめたものである。なお、都市研には人文学部、地域教育文化学部、農学部、工学部、理学部、医学部の教員41名(2011年現在)が参加している。

### Data Mining

Yong Yin(殷勇), Ikuo Kaku, Jiafu Tang, Jianming Zhu Springer 2011年1月



Data Mining introduces in clear and simple ways how to use existing data mining methods to obtain effective solutions for a variety of management and engineering design problems. Data Mining is organized into two parts: the first provides a focused introduction to data mining and the second goes into greater depth on subjects such as customer analysis. It covers almost all managerial activities of a company, including: supply chain design, product development, manufacturing system design, product quality control, and preservation of privacy. Incorporating recent developments of data mining that have made it possible to deal with management and engineering design problems with greater efficiency and efficacy, Data Mining presents a number of state-of-the-art topics. It will be an informative source of information for researchers, but will also be a useful reference work for industrial and managerial practitioners.